安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画
策定・評価委員会　会議概要

1	会 議 名	令和５年度　第１回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日　　時	令和５年７月 25 日(火)　午前９時 30 分から午前 11 時 30 分
3	会　　場	安曇野市役所本庁舎　４階　大会議室
4	出 席 者	磯野会長、細川副会長、土肥委員、百瀬委員、宇都委員、大澤委員、夏目委員、山田委員、鈴木委員、小澤委員、亀井委員、川﨑委員　　計 12 名
5	市側出席者	中山副市長、沖市民生活部長、地域づくり課　保科課長、金子係長、平林主任、土橋主任
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人　０人	記者　０人
8	会議概要作成年月日	令和５年８月 10 日

協　議　事　項　等

1　概要

（1）開会

（2）委嘱書交付

（3）市長あいさつ　※代理で中山副市長が市長メッセージ代読

（4）自己紹介

（5）会長及び副会長の選出

・委員より、今年度は第３次計画の策定年のため、前期の会長、副会長に引き続き役に就いていただきたい旨の推薦があった。承認の可否をとったところ承認される。

→会長：磯野康子委員、副会長：細川博水委員を選出

（6）報告事項

① 協働のまちづくり推進基本方針及び同行動計画策定・評価委員会設置要綱について

② 協働のまちづくり推進基本方針及び同行動計画について

③ 安曇野市市民活動サポートセンター拠点整備に係るワーキンググループ検討結果について

④ 令和５年度安曇野市市民活動サポートセンター事業計画について

⑤ つながりひろがる地域づくり事業補助金交付要綱一部改正の要旨について

【ご意見等】

(副会長)

・県の補助金で「地域発　元気づくり支援金」があるが、補助率などの概要を知りたい。

(委員)

・つなひろ補助金と同じく重点テーマを定めており、重点テーマに該当する事業は補助率５分の４以内、該当しない事業の補助率は４分の３以内である。補助額の下限は 30 万円である。

(事務局)

・つなひろ補助金は、市民活動のスタートアップの意味合いが込められている。３年間で力をつけてもらい、その次に県の元気づくり支援金の活用につなげていただきたい。

（委員）
・つなひろ補助金が始まって十数年経つが、成果はどのようなものか。
（事務局）
・当時は数十団体と、かなり多くの団体に活用いただいていた。しかし近年は減少し、令和４年度は 10 団体、今年度は８団体の見込み。但し最近では、若手の団体や把握していなかった新規の団体が活用する傾向にあり、活用団体数は減っているが、新規団体の掘り起こしが進んでいることは成果と考えている。
（委員）
・当時は、既に活動している団体が多かった。新規団体の掘り起こしができているのであれば成果といえる。この補助金をどう活用すれば市民活動が盛んになるか、コーディネートが重要。

～～～　休憩　～～～

（７）協議事項
① 第３次計画策定に向けた方向性について
（委員）
・「協働」と言われると行政からの押し付け感、やらされ感が強い。線引きは難しいが「行政がやるべきこと」と「市民ができること」を明確にすることが協働につながると思う。
・ボランティアコーディネーターという資格があるため、そういった人材を確保し、活かす方法を模索する必要がある。また、市民活動サポートセンターを新たに設置する場合は、活動やつながりを広げられる人材の確保が重要である。
（委員）
・高齢化で担い手不足の中、どのようにすれば地域の人と人とがつながれるのか、という部分を次期計画に反映してほしい。
（委員）
・「協働」の認知度があまり進んでいないため大きく変わるといい。「協働」という言葉を知らなくても、気づいたら「協働」のようなことをやっていて、楽しく、地域が良くなっていく姿を目指す、ということ。
・第３次計画では、これまでの取り組みや沿革を入れられたら理解が進む。
・この計画は行政の計画なので市民からは中々分かりづらい。先ほどの「行政」と「市民」の線引きは難しいが、行政として市民や地域がこうなってほしい、理想の姿みたいなことを上手く整理できれば計画を見た市民も分かりやすい。
（会長）
・「協働」は知らない間にやっているというケースもあり、また行政との協働も近年しやすくなっていると感じている。しかし、市民に対する理解促進は乏しい。
・PDCA サイクルによる推進は難しい。AAR サイクルの手法で計画を進める考え方は良い。
（委員）
・生活支援体制整備事業や生活支援コーディネーター、地域づくりコーディネーターなどがあり、課題解決に向けて似たような分野の取り組みがあるため、重なる部分は情報共有し、役割分担を図るなど、次期計画では明確にし、それぞれの強みを活かせると良い。

（委員）
・本計画とその他関連計画等が具体的にどうリンクしているかが分かると良い。
（委員）
・協働は目的ではなく手段である。何かを成し遂げるための手段として協働がある。基本コンセプトの見直しでは「つながり　ひろがる」が一番分かりやすい。協働という言葉は必要であるが、今後どんなまちになってほしいか、イメージしやすいコンセプトが必要である。
（委員）
・コロナ禍を経て、自助が精いっぱいで互助・共助もできないといった家庭が増えている。災害時支え合いマップを作成しても助けに行く人がいないといったケースも増えている。しかし、協働によるまちづくりは必要であるため、今後は、自然と協働が生まれるような環境をどのようにして整えるかが大きなカギになると感じている。また、私はPDCAサイクルではなく、OODA（ウーダ）ループというのを推奨している。AARサイクルと似ているため、より分かりやすい言葉で、市民にも提唱すれば定着すると思う。
（委員）
・前期計画策定に向けたアンケート調査では、８割以上の市民が「協働のまちづくりを推進していくことは必要」と考えているが、実際にやりたいと思うか又はできるか、は別である。個人的にはなぜやらないのか、できないのか、という所に興味がある。また、調整役のことをコーディネーターというが、議論を円滑に進めたりする役をファシリテーターという。イメージ的には、コーディネーターよりファシリテーターの方が合っていると思う。
（委員）
・協働という言葉があまりピンとこなくて、できる人や好きな人がやっているというイメージがある。本当につながってほしい人たちは表面に出てきていないのではないか。公民館活動でもやりたい人が出てくるが、出てきてもらいたい人にどうすれば出てきてもらえるか課題である。
（副会長）
・コーディネーターは、スキルをもって、人や情報、ノウハウなどを結びつけたりする調整役となる。専門性があり、単に講座を受けたりしただけでは中々育たない。福祉では生活支援コーディネーター、生涯学習では社会教育主事、ボランティアコーディネーター、市民活動コーディネーターといるが、市民活動コーディネーターは、各分野を繋ぐ専門的なコーディネーターであると言える。
（委員）
・生活支援コーディネーターとして、区を中心に何か支え合いの仕組みができないか、と考えているが、各区で温度差だったり、区の運営自体も大変だったりと、そこに新たな仕組みを、というのはできないでいる。

② 先進地視察研修について
（事務局）
ⅰ）茅野市…市民活動センター「ゆいわーく茅野」
ⅱ）佐久市…市民活動サポートセンター「さくさぽ」
ⅲ）静岡県牧之原市　　３地域を視察候補地として提案

（委員）

・以前、市区長会で牧之原市に視察に行ったが、地震の来る確率が高い地域で、その地震に備え、いかに市民が動くかを体現している地域である。当時の市長が突然「ワークショップをしましょう！」というぐらいレベルが高い。参考にするなら牧之原市に行ってみたいし、個人的には佐久市も行ったことがないため行ってみたい。

（委員）

・市民活動サポートセンターのあり方やコーディネーターの役割、機能を明確化していく中で、牧之原市に興味がある。視察に行く以上はポイントを絞る必要があるが、私は情報発信という面で図書館機能の活用について興味があるため、視察先で聞ければと思っている。

（委員）

・情報提供になるが、岩手県矢巾町（やはばちょう）という町でとても面白い取り組みをしている。市民参加のまちづくりの討議だが、2050 年からタイムスリップした、という設定で討議している。非常にユニークで突拍子のない意見が出るため、盛り上がる。参考にしてほしい。

（委員）

・サポートセンターを今後どうしていくか、という視点でいくと視察先は茅野市がいいと思う。茅野市は社協と連携しているため、サポートセンター設置の要望にある「社協との連携」の部分も参考となる。

（会長）

・過去に茅野市を視察したが、違う視点からも見聞きしたい。

（委員）

・移動や視察先等の調整になるが、茅野市と佐久市を両方行く方向で事務局に一任するということでどうか。

（事務局）

・茅野市を第一希望に、佐久市も行ければ調整する。

（８）その他

① 第１回学習会について

（会長）

・年４回の委員会のみでは計画策定に向けて考えが深まらないため、委員会の無い月に学習会を開催している。参加は任意であるが積極的に参加してほしい。

② その他

（９）閉会